

全体講評

饗庭伸（首都大学東京都市環境学部都市政策科学科）

■今年度助成事業の応募・採択状況

今年度助成事業は、2019 年 3 月から「はじめの一步部門」、「まちづくり活動部門」、「U23 まちづくり部門」の全 3 部門の募集を開始し、一步部門 6 件、活動部門 22 件（1 回目 12 件、2 回目 8 件、3 回目 2 件）、U23 まちづくり部門 4 件、全 32 件の応募がありました。最終的な申請金額は計 926 万円となりました。助成額が 5 万円に固定された一步部門を除けば、ひとグループ平均 34 万円、14 グループから 40 万円以上の助成申請がありました。6 月 2 日（日）、三茶しゃれなあどにて、第 27 回公開審査会が開催され、その結果、29 件への助成が決定しました。昨年度の助成事業はすべての団体が採択されましたが、今年度は惜しくも 2 団体が不採択となりました。助成総額は 499.2 万円、一步部門を除くとひとグループ平均 18 万円です。助成申請額の満額助成が決定したグループは 3 グループでした。

■採択された企画について

活動の場所、テーマとも広がりを見せていますが、これまでのまちづくりによって作り出された場所や空間を足がかりにしている活動も多くあり、世田谷のまちづくりの蓄積が、新しい活動の支えになっていることがうかがわれました。

様々な人が場所や空間を共有することによって、新しい出会いや連携が生み出されているということだと思いますし、今回の公開審査会などを通じてつくりだされた新しいつながりからも、同じものが生み出されれば素晴らしいと考えます。

テーマについて、明確な大きな傾向があるわけではなく、それぞれが固有の必要性と固有の可能性から組み立てられた独特な活動であり、その実践を通じて、まちづくりの生態系がより豊かになっていくものと考えられます。市民の小さな活動は鉱山のカナリアのようなものでもあり、鋭敏な感性で発見された社会の課題、柔軟な思考によるその解決方法は、区が抱える課題の解決を導くものかもしれません。区の行政、あるいは他の市民組織が、市民の小さな活動から貪欲に学ぶ、という姿勢も期待したいと思います。

審査を通じて、それぞれの活動が何をゴールにするのかを考えていました。ファンドは短い期間しか支援をすることができませんが、その間にしっかりした「稼げる」組織体に成長するものもあれば、やるべきことをやりきって解消されるものもあるでしょう。あるいは、人々が協力しあって課題を解決する物々交換のような経済圏をつくりあげ、資金を必要としない状態をつくりあげるものもあるでしょう。成長や独立だけがまちづくり活動のゴールではありませんし、持続することだけがゴールでもありません。1 年間の活動を通じて、皆さんの「ゴール」の答えを持ち寄っていただくことを期待しています。

今後も引き続き当ファンドの運営へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

以上